

第2学年 学年通信 自己探求・自己錬磨・自己実現 ～自分だけの正解を探して～

第31号 令和2年12月11日（金）

「はじめまして…」

「はじめまして…」と言うのもおかしなのですが、今回初めて学年通信を担当するので挨拶から始めます。私は皆さんの先輩です。昭和59年卒業の第36回生。ざっと計算して36年前に卒業しました。

平成元年に世界史の教員として働き始めました。その関係で、若い頃は見聞を広めたい一心で、海外を度々旅行しました。今回は、その時に感じたことお話しします。途中で横道にそれるかも知れませんが。

大学では「19世紀のロシア近代史」を専攻しました。1917年に「ロシア革命」が起こりますが、その直前の時期です。「革命前」のロシア。ロマンを感じました。ぐつぐつと鍋が沸騰をはじめ、続いてコンロの火がさらに強くなり、鍋ぶたが天井めがけて吹っ飛ぶような、そんな時代です。（時代の雰囲気を知りたい方には、映画「ドクトル・ジバゴ」がお勧めです！）

生徒に世界史を教えるにつれ、実際にロシアの空気に触れたい、肌で感じたい、見たいという気持ちは募るばかりでしたが、ようやく30代半ばに実現しました。

さて、ロシアで感じた「違い」を一つあげてみます。ざっとまとめれば「ロシアは“大”が美しく、日本は“小”が美しい」ということです。どういふことかという、ロシアは街全体に美が溢れていると思いました。全体の美の調和が素晴らしい。ビッグスケールの美しさです。「赤の広場」、「ネヴァ河畔のエルミタージュ美術館」などなど。しかし、どんどん焦点を当てて細部を眺めていくと、「雑」。細かいところが大雑把なことに気づきました。

一方日本では、人工的な街全体を美しいと思うことはあまり無いですね。むしろ、焦点をぐつと絞って、「庭園」「家具」といったミニスケールに、細やかな美しさを感じます。こうした違いは何に要因があるのでしょうか？

最後のまとめといきましょう。世界史を勉強していると「違い」だらけです。「違い」があることは、素晴らしいことだと思います。「違い」は「違い」を理解しようという好奇心の原動力です。「違い」を理解することは、「違い」に対する偏見や誤解を無くしてくれます。「違い」があることで、自分を客観的に分析する努力が生まれます。みんなが同じで「違い」がなければ、自分を理解する努力は必要ないでしょう。

「違い」を恐れるのではなく、「違い」を楽しもう！ 頑張れよ、後輩諸君！！

【週行事予定】 12/4（金）～12/19（土） ※学校行事は2年生関係分

月	日	曜	行事予定	朝課外	FT	備考
12	11	金	普通授業	○	○	7:25
12	12	土	土曜講座B ※3年土曜講座終了 土曜進路講座(南九州大学健康栄養学部管理栄養学科)	×	×	8:15
12	13	日				
12	14	月	普通授業	○	○	7:25
12	15	火	普通授業	○	○	7:25
12	16	水	普通授業 放課後進路講座(九州保健福祉大学専門学校看護学科)	○	○	7:25
12	17	木	普通授業	○	○	7:25
12	18	金	普通授業	○	○	7:25
12	19	土				
12	20	日				
12	21	月	特編授業 ホキャンⅢ	○	なし	7:25
12	22	火	特編授業 ③④小論文ガイダンス	○	なし	7:25
12	23	水	特編授業	○	なし	7:25
12	24	木	特編授業	○	なし	7:25
12	25	金	終業日	なし	なし	7:25
12	26	土	日南市教育関係機関派遣事業(小村記念館)			
12	27	日	日南市教育関係機関派遣事業(小村記念館)			